

大阪大学適塾記念センターとは

2011年、大阪大学創立80周年を機に適塾記念センターが設立されました。適塾運営・大阪学・オランダ学の三部門を擁し、適塾建物および歴史資料の維持管理、近世以降の大阪の学問・文化や日蘭関係史の研究を行うほか、阪大の源流の一つである適塾を顕彰するため、見学会・展覧会・講演会等の様々な社会教育事業を展開しています。



「開催したイベント」平成二九年度
 ◎適塾特別展示「新発見！緒方洪庵夫人・八重のてがみ―良妻賢母の知られざる素顔―」
 (於 適塾5/30~6/11)
 2014年に洪庵の和歌短冊を貼った屏風から発見された八重の書状を一般公開しました。そこから従来のイメージとは異なり、人間味あふれる等身大の八重の姿を垣間見ることができました。



◎講演会
 「適塾講座 近世・近代の大阪と女性」(於 中之島センター)
 松永和浩(適)「緒方洪庵夫人・八重の実像―新出の自筆書状から―」(9/27)
 小川知子(大阪大)「跡見花嫁の女性教育に尽力した大阪ゆかりの女性画家」(10/25)
 増田周子(関西大)「織田作之助文学に描かれた女性―初期作品を中心に―」(11/29)
 公開講座フェスタ(於 大阪府庁・11/14)
 島田昌(医)「運動が脳に及ぼす効果」

◎適塾記念講演会(於 中之島センター・12/4)
 田島節子(理)「高温超伝導と未来社会―実学と虚学のはざまにて―」
 堂目卓生(経)「目指すべき社会を考える―経済思想史の視点から―」
 適塾ダヴィンチプロジェクト・シンポジウム
 (於 中之島センター・7/17)
 「科学から探るアート研究最前線」
 松永和浩(適)「文化財としての適塾」
 伊藤謙(博)「サイエンスから探る新たな歴史文化保全―適塾ダヴィンチプロジェクト―」
 大塚洋(理)「大気圧質量イメーシング法の研究―ナノ液体で化学成分の分布を可視化する―」
 ブルー・ブルネットイ(ベルジャヤ大)「サイエンスとアート―科学で絵画を探る―」
 ブレンド・ドーター(ヘルジャヤ大)「ロマン分光法による染料と顔料の検出と同定」



適塾記念会 入会のスゝメ

適塾記念会は緒方洪庵・適塾およびその関係者の業績を顕彰し、大阪の学問・文化の伝統を発信することを目的に、1952年に創設されました。また適塾建物や適塾関係資料等の文化財保護活動にも取り組んでいます。適塾記念会に入会し、これらの活動にご支援・ご協力をお願いします。

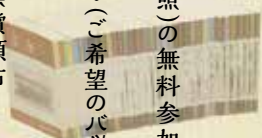


会費	
普通会員	年間一口 二、〇〇〇円
賛助会員	年間一口 一〇、〇〇〇円

いずれも複数年・複数口での申し込み可。
 普通会員五年間(二万円)がおスゝメ!

会員特典

- 特典① 適塾の参観料がいつでも無料に!
 - 特典② 適塾見学会(年二回、前ページ参照)の無料参加が可能に!
 - 特典③ 会誌『適塾』(年刊)を無料でお届け(ご希望のバックナンバーも)! 投稿資格もあり!
 - 特典④ 『大阪大学適塾記念センター所蔵 適塾関係資料目録』を希望者に無償頒布!
 - 特典⑤ 適塾で販売する図録『緒方洪庵と適塾』・絵葉書が一割引きに!
 - 特典⑥ イベントの案内を随時お届け!
- ※詳細については大阪大学適塾記念センターHPをご覧ください。



適塾かわら版

巻二



「適塾かわら版」は大阪大学適塾記念センターのニュースレターです。



大阪大学適塾記念センター ニュースレター「適塾かわら版」巻二
 編集・発行：大阪大学適塾記念センター デザイン・印刷：cocotier
 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館内 電話 06-6850-5016
<http://www.tekijuku.osaka-u.ac.jp> 2018年3月31日発行

適塾人物かみみ

其ノ二 緒方八重

おがた やえ
緒方洪庵夫人

生没 文政五年(1822)~1880
出身 摂津国名塩村(西宮市名塩)

緒方洪庵が適塾を開いた天保九年(1838)に嫁ぎ、病弱な夫を献身的に支えた。七男六女(うち四人は幼没)と子宝に恵まれ、義父母への細やかな心遣いも欠かさなかった。福沢諭吉が自伝で「おっかさんのようにしている恩人」と語るなど、塾生からも母のように慕われた。文久三年(1863)に夫に先立たれた後は、洪庵の名を汚さぬようにと息子たちを熱心に教育し、三人を海外留学させた。人々の尊崇を集め、理想的な良妻賢母として語られた。

「ひとしお御勉強、御父上様の御名をけがさぬように」(次男・洪哉宛書状・1865)



適塾見どころ

其ノ二 玄関



江戸時代へののびのびな！
玄関の土間に足を一歩踏み入れると、江戸時代の姿を偲ばせる空間が目に見え、さつきまで日差しやアスファルトの熱気が解放され、ひんやり涼しく感じられます。

乗かひの表情、三和土！
三和土(たたき)とは、花崗岩などが風化してできた土に石灰や水を混ぜ、たたき固めて仕上げた土間です。蓄冷・蓄熱に優れ、土の柔らかさは風合いもよく、足にもやさしいものです。反面、キヤリーバックや三脚、ハイヒールなど、思わぬもので削られてしまうほどのもろさなです。伝統的な建物を大切に心がけを持しましょう。

人力車の車夫溜り！
玄関右手には、奉公人用と考えられる部屋があります。この建物が病院だった明治以降には、外来や往診のため、文明開化の象徴：人力車を牽く車夫の控室(車夫溜り)として改装されました。昭和の大改修(1976)~80年(により)、洪庵が生きた時代の姿に復原されています。

適塾とは蘭方医・緒方洪庵(1800)~(1863)が天保九年(1838)、大坂に開いた蘭学塾です。全国から千名にも上る塾生を集め、大村益次郎・福沢諭吉・長与専斎をはじめ、日本の近代化に貢献する人材を輩出しました。北浜に残る適塾建物は現存唯一の蘭学塾遺構として、また近世大坂を代表する町屋建築としても貴重で、昭和二年(1927)に国史跡、同三年に国の重要文化財に指定されています。ここでは同五年から一般公開されている適塾の見どころについて紹介していきます。

適塾参観案内

- 【最寄り駅】京阪淀屋橋駅・北浜駅、地下鉄淀屋橋駅下車 徒歩5分
- 【開館時間】午前10時~午後4時
- 【休館日】月曜日(国民の祝日は開館)、国民の祝日の翌日(土・日・祝は開館)、年末年始(12月28日~1月4日)
- 【参観料】一般 260円、高校・大学生等 140円、中学生以下 無料、※適塾記念会会員および阪大生は無料!
- 住所: 大阪市中央区北浜3丁目3-8
電話: 06-6231-1970

荷物を預けて快適に見学できます。日・英・中・韓の4カ国語を選択できる音声ガイドを用意しています。(無料) 海外からの研究者や留学生など、お客様の案内にも最適です。

平成二九年丁酉 適塾見学会道程図

夏季見学会 (北浜周辺)

「適塾とその周辺をたずねる」

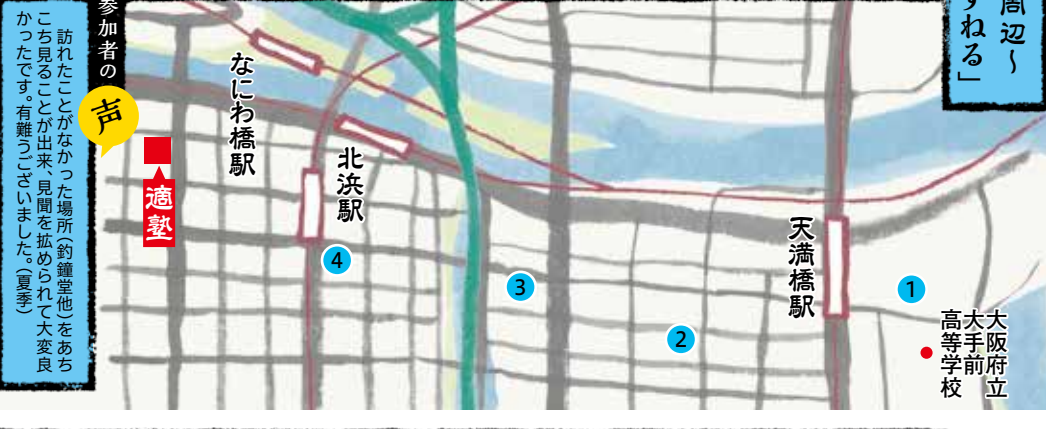
1 大坂町奉行所・大坂代官所跡
江戸幕府が直轄地の大坂三郷を支配する機関。奉行所は東西2ヶ所あり、はじめ大坂城京橋口門外にあったが享保9年(1724)の大坂大火で西町奉行所は本町橋東詰に移設され、その跡地に谷町代官役所が設置された。

2 釣鐘屋敷跡
寛永11年(1634)、将軍 徳川家光が大坂を訪れ大坂市中の地子銀を免除した。その恩沢を忘れないよう、大坂の町人は鐘樓を設置し、一刻ごとに鐘をくんとにした。明治3年(1870)に撤去されたが、地元有志により昭和60年(1985)に再建された。

3 銀座跡
銀座は、江戸幕府の銀貨製造所であり、大坂の銀座は1610年代初期に設置された。しかしここでは製造は行われず、京都銀座に諸国灰吹銀・清銀を取り次ぐ「銀座出見せ」として機能した。両替町の町名は銀座にちなむ。

4 高麗橋三井家屋敷跡
豪商 越後屋三井家は延宝元年(1673)に京都で呉服仕入店を開業した。江戸の越後屋呉服店は、現金安売掛値なしの新商法で評判となった。元禄4年(1691)にはここに越後屋呉服店の出店と大坂両替店を開業した。

大阪市中央区高麗橋1



参加者の声
訪れたことがなかった場所約鐘屋敷他をあちこち見ることが出来、見聞を拡げられて大変良かったです。有難うございました。(夏季)

適塾見学会は毎年夏季・秋季、適塾記念会会員を対象に開催されています。ここでは参加出来なかった会員および非会員の方々にも自由に散策できるように見学会道程の概略を再現しました。

秋季見学会 (三田周辺)

「蘭学者・川本幸民のふるさと三田」

1 三田城・三田陣屋跡
中世以来、山陽道と山陰道とを結ぶ交通の要衝として発展した三田市街地の西側段丘上に位置する平山城。一城一令により廃城となり、寛永10年(1633)に志摩から九鬼久隆が入部して陣屋となる。幕末まで三田藩・九鬼氏13代が支配した。

2 藩校造士館跡
第7代藩主・九鬼隆由(1674~1697)が整備した国光館は文政元年(1818)に移転・拡張され、造士館となった。幕末の藩政改革で辣腕を振るった白洲退蔵など、儒官の白洲家が教育に当たった。慶応4年(1868)には藩主・隆隆の改革の一環で洋学も導入された。

3 旧九鬼家住宅
三田藩の家老を代々勤めた九鬼家の当主・隆隆が設計し、明治9年(1876)頃に建てた擬洋風建築。二階部分の洋式のデザインに特徴がある。隆隆は、日本鉄道測量の父・佐藤政養に学び、新橋~横浜間、大坂~神戸間の鉄道敷設に携わっている。

4 英蘭塾跡
幕府倒壊まで江戸にいた幸民が慶応4年7月に帰郷し、金心寺に開いた洋学塾。子の清一とともに英語・オランダ語・化学を教授した。日本の実験心理学の祖・元良勇次郎、初代帝国博物館総長・九鬼隆一を輩出した。

5 川本幸民出生地
文化7年(1810)、三田藩医・川本周安の3男として生まれた幸民は、訳書「化学新書」を著し、マッチやビールを試作した化学者。薩摩藩主・島津齊彬が主導した集成館事業や、幕府の審書調所にも携わった。蘭学修行時代は緒方洪庵とともに坪井信道に師事した。



参加者の声
三田の素晴らしいポイント地点を学術的に説明していた大き大変参考になりました。今後共、阪大の象徴である適塾の存在について研究開示して下さい。(秋季)